

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト
2015 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」公募助成 一般公開プレゼンテーション

【日時】3月1日(日)14:00~17:00

【会場】小山台教育会館 205 会議室

<http://www.koyamadai50.jp/access/>

一般にはまだあまり知られないまま、お米から果物まで、ときには「減農薬」の切り札として用いられ、シロアリ駆除剤や防虫剤として身近な暮らしにも入り込んでいるネオニコチノイド系化合物（およびフィプロニル）——。有機リン系農薬の代替物として 1990 年代に開発されて以来、国内外を問わず使用が急拡大するネオニコチノイド系農薬は、その浸透性・残留性・神経毒性から、ミツバチの大量失踪が示唆するように生態系と生物多様性全体を脅かすばかりか、子どもたちの脳の発達にも悪影響をおよぼす可能性が指摘されています。EU でのモラトリアムをはじめ世界的に研究や規制が進んでいますが、日本では各地で民間の削減努力が生まれつつある一方、全体的にはいまなお規制緩和の方向です。

NGO・市民活動支援基金アクト・ビヨンド・トラストによる4年目の公募に応え、一次審査を通過した6企画の公开发表会を下記のプログラムで開催します。

【プログラム】(予定)

14:00~14:15	開会あいさつ+選考委員紹介	
14:15~14:35	特定非営利活動法人 F.O.P	ミツバチからのメッセージ
14:40~15:00	公益財団法人 日本自然保護協会	浸透性農薬の生態系影響についての日本国内の生態学コミュニティへの普及啓発活動
15:05~15:25	NPO 法人河北潟湖沼研究所	集落営農によりつくるネオニコフリーエリアと田んぼトレーサビリティへの取り組み
15:30~15:50	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	農場から食卓までを通じたネオニコフリーの実践に向けた意識調査と啓発
15:55~16:15	小織健央	つながりたい！ひろめたい！ミツバチまもり隊！
16:20~16:40	尾崎幸仁	ミツバチの持ち帰る花粉荷および巣内ハチミツ中の含有農薬調査
16:40~17:00	情報交換+ネットワーキング	
17:00~17:10	連絡事項+閉会あいさつ	

※ 発表 10 分 / 質疑応答 10 分

2015 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」公募助成 一次審査通過企画 概要一覧

- ※ 申請書受付順
- ※ 企画概要は申請書記載の内容を転載

「ミツバチからのメッセージ」 特定非営利活動法人 F.O.P(申請者:杉浦歩実)
広報・社会訴求部門
<p>2013,14 年度に製作してきたダンスミュージカル「だれもしらないみつばちのものがたり」を映像化し、上映会を行う。今までミツバチのことを知らなかった、子供から大人までの環境問題に関心の無かった人達が、製作プロジェクトを通してでミツバチの暮らしや生態、そして今ミツバチに起きている問題を知り、ソーシャルネットワークや家族の対話などで発信をする側となった。この新たな発信源をキッカケに更に広める。2015 年度は映像化、完成試写会を行い、2016 年から全国各地で上映を目指す。</p>
「浸透性農薬の生態系影響についての日本国内の生態学コミュニティへの普及啓発活動」 公益財団法人 日本自然保護協会(申請者:高川晋一)
広報・社会訴求部門
<p>浸透性農薬が生態系や人体に重大な悪影響を及ぼすことが近年科学的に示されつつあるものの、日本国内においては未だに研究者コミュニティ内ですらその認知が乏しい。本企画は主に生態学研究者や各地の自然保護団体をターゲットとして、国内外の研究者を演者としたシンポジウムや集会を開催し、浸透性農薬の生態系影響に関する普及啓発を行い、今後の社会課題解決にむけた主体の発掘と科学的根拠の共有を行う。</p>
「集落営農によりつくるネオニコフリーエリアと田んぼトレーサビリティへの取り組み」 NPO 法人河北潟湖沼研究所(申請者:高橋 久)
調査・研究／広報・社会訴求／市場“緑化”部門
<p>昨年取り組んだ生きもの元気米の取り組みは、複数の農家の賛同を得てネオニコ空散をしないエリアをつくることができた。この取り組みを推進する上での次の課題としては、ある程度まとまったネオニコフリーエリアをつくることである。集落単位での取り組みとすることができれば、ある程度の連続するエリアを確保できる。また、参加する農家がもともと所有している小規模の籾すり・乾燥装置を利用することで、田んぼごとのトレーサビリティにも取り組みやすい。</p>
「農場から食卓までを通じたネオニコフリーの実践に向けた意識調査と啓発」 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(申請者:廣重朋子)
広報・社会訴求／市場“緑化”部門
<p>ネオニコチノイド系農薬の削減には、生産者・流通業者・消費者それぞれの意識を向上させることが重要と考える。そのために、ネットワークを活用してそれぞれに対してアンケート四季意識調査を行ない、認知度や普及の可能性を調査・分析し、その結果をシンポジウム等にてフィードバックする。シンポジウムではネオニコに対して取り組みを行なっている生産者・流通業者を講師に招いてお話を伺い、参加者各自が何ができるのかを考える。</p>
「つなげたい！ひろめたい！ミツバチまもり隊！」 小織健央
広報・社会訴求部門
<p>①活動の輪をつなげたい！：映画「ミツバチからのメッセージ」の上映会。自然や自給自足に関心のある層を中心に、農業問題、農業の現状と課題について、少人数での映画上映とお話会を開催し、理解を深める。②ミツバチまもり隊をひろめたい！：「みつばち音楽祭」の開催。手作りの</p>

音楽祭として、農業に関心のない人や子どもも参加しやすい環境で音楽やマルシェ、周辺散策を取り入れながらミツバチ問題への関心を呼びかける。③ミツバチまもり隊を育てたい！：昨年結成したミツバチまもり隊のパンフレットを作成・配布する。上記①②の活動で隊員を募集し、ミツバチまもり隊の環境保護団体としての組織化を目指す。

「ミツバチの持ち帰る花粉荷および巣内ハチミツ中の含有農薬調査」

尾崎幸仁

調査・研究部門

兵庫県小野市及び沖縄県宮古島市において養蜂を営む養蜂業者より、ミツバチが思うように増やせない状況についての原因解明の相談を受けた。養蜂業者はミツバチが強群にならない原因として、ネオニコチノイド系農薬の影響を疑っている。ミツバチが巣に持ち帰る花粉荷(花粉団子)および巣内より採取したハチミツの残留農薬分析を行い、ミツバチ群の強勢と農薬との関係を明らかにしたい。尚、2014年度に貴団体より研究支援を頂き、花粉荷中の農薬汚染を調べる研究を行ったが、サンプル中よりネオニコチノイド系農薬は検出されなかった(検出限界以下)。この研究を継続して行うと共に、新たに宮古島の養蜂場で基礎的データを収集し、農薬汚染の実態及びミツバチ(生物)に与える影響を調べる。

[abt サイトのトップに戻る](#)